

全国 3000 万署名・推進ニュース

NO. 4

発行日: 2006年8月31日 発行: 全教・日高教・教組共闘

文科省 第8次教職員定数改善計画の策定を放棄！—概算要求—

8月29日に文科省の概算要求が発表されました。昨年度は5ヵ年の教職員定数改善計画を掲げ、初年度となる06年度に必要な経費を概算要求しました。ところが、今年度は、昨年度のような教職員定数改善計画はありませんでした。

出されたのは、「優秀な教職員の確保及び教育課題に対応するための緊急的な教職員配置」義務教育費国庫負担金を0.5%増の1兆6844億円を計上するとともに、「教育課題対応緊急3ヵ年対策の実施」として、特別支援教育推進のための教員配置 3ヵ年で1,416人(初年度19年は331人) 食育の推進のための栄養教諭配置 3ヵ年で94人(47都道府県×2人)(初年度19年は20人)と、わずか1,510人を増員する。しかも、3ヵ年で自然減のため4,000人減となり、結局2,590人を減らすという「教職員定数削減案」でした。

毎年度の措置数 毎年度の自然減見込みにより按分 (文部科学省概算要求より)

	19年度	20年度	21年度	計
自然減	▲900人	▲1300人	▲1900人	▲4100人
措置数	331人	479人	700人	1510人
(特別支援)	(331人)	(449人)	(656人)	(1416人)
(食育)	(20人)	(30人)	(44人)	(94人)
差引	▲569人	▲821人	▲1200人	▲2590人

先の国会で成立した「行政改革推進法」や、7月に閣議決定された経済財政諮問会議の「骨太2006」の「児童生徒の減少に伴う自然減を上回る純減を確保する」との政府方針ですが、第七次まで継続されてきた教職員定数改善計画の策定を文科省自ら放棄したことは、父母・国民の願いに対する背信行為といわざるを得ません。激しい憤りでいっぱいです。この怒りを力に、今年度の全国3000万署名を大きく前進させることが大切です。

今年も元気！ 青森 5～6日はスタート街宣

昨年度、署名数を大きく伸ばし、集約数が1万筆を越えた青森では、昨年の教訓を生かして、今年も元気に、県教組と高教組が力を合わせて、署名に取り組み始めます。昨年度の教訓は、「秋のキャンペーン」として、3000万署名と組合員拡大と全教共済拡大の3点をセットに取り組んだこと。さっそく、9月2日にはキャンペーンを成功させるために、「秋のキャンペーンを成功させるつどい」を開催し、約60人の参加で意思統一を行います。

そして、9月5日と6日の2日間は、スタート街宣行動として、青森市内のデパート前で、教育基本法改悪反対とともに、3000万署名を訴える計画です。

なお、青森では「署名を集める極意11ヵ条」が評判です。そのひとつが「孫悟空になって」。これは「自分ひとりで100名分を集めるとしたら大変。10名の署名を集めてくれる人を10人見つける。(保護者、知人、教え子etc)」との極意。その他、「家族・親戚はフルに活用する」、「学校に出入りする業者にお願いする」などの極意があります。



お願い

全国各地で本格的に3000万署名がスタートしました。ぜひ、各地の3000万署名のとりくみ状況をお知らせください。